

## 市長定例記者会見

### 冒頭説明

市長定例記者会見【令和5年第4回定例市議会】

#### 【フリップ1】

#### 【フリップ2】

はじめに、前回の定例記者会見において、令和6年4月からの市内中学校制服の統一、制服のブレザー化の実施にあわせ、「統一制服購入費補助金」の導入について申し上げましたが、統一制服購入費の全部につきまして、支援することを決定しましたので、お知らせいたします。

本市では、誰一人取り残さない社会の実現をめざすSDGsの理念に基づくまちづくりを推進しており、この一環であるとの考えから、本年3月15日に「北斗市 性の多様性を尊重するまち宣言」を行い、本年4月からは「パートナーシップ宣誓制度」がスタートしております。

教育現場においても、この宣言の趣旨を踏まえた取組みを行うべく、令和6年4月からの「統一制服」を実施するに当たり、妊娠・出産から育児、子育てまで切れ目のない施策を展開する中での一つの方策として、保護者の経済的負担の軽減を図るため、統一制服購入費の全部につきまして、支援を行います。

#### 【フリップ3】

具体的には、「男性型・女性型ジャケット」、「冬用の男性型・女性型スラックスとスカート」および「ネクタイ・リボン」につきまして、消費税込みの販売価格 34,100 円を全額、市で負担することといたします。

なお、希望購入とする「夏用の男性型・女性型スラックスとスカート」や「ワイシャツ」などにつきましては、助成対象外となっております。

また、この「統一制服」につきましては、4つの安心サービスがございます。

一つ目に、生徒の皆さまの成長に伴い、丈出しなどのお直しにつきましては、在学中の3年間、何度でも無料で対応します。

二つ目に、成長に伴う体型の変化などにより、上着が着用できなくなった場合、着用している制服と引き替えて、無料でレンタルを行う、着用保証を行います。

三つ目に、お下がり対応時や転校時に発生するエンブレムの付け替えを、無料で行います。

四つ目として、ボタンなどの紛失しやすい附属品は、予備を各学校に用意することとしております。

#### 【フリップ4】

SDGsの取組みにつきましては、本年度から、市内で事業を営む方や、市内で活動する団体などのSDGsへの取組みを応援し、協働でSDGsの理念を市内に広く普及させることを目的とした北

斗市SDGs宣言推進事業も実施しております。

この事業は、宣言を行う市内の事業者や団体の皆さまを登録し、その取組みを市の広報誌やホームページなどで広く公表することで、市内におけるSDGsの活動の促進を図るものであります。

申請いただいた8事業者・1団体には、初回の登録として、

10月10日に登録証を授与いたしました。

今後、登録いただいた事業者の取組みを市民の皆さまにも広く周知し、SDGsの理念に基づくまちづくりに向けた機運を醸成して参ります。

#### 【フリップ5】

次に、小中学校への空調設備の整備についてでございます。

本年11月10日に開催されました令和5年第3回臨時市議会において、関連の補正予算を可決いただいたところですが、今年の夏のような、連日の記録的猛暑から、児童・生徒の健康を守り、安全・安心な学習環境を早急に整える必要があると判断したところです。

小中学校への空調設備の整備に関しては、関連する電気工事や電気設備の調達などを考慮のうえ、想定される施工期間を検討した結果、全校一斉の着手は困難であると判断し、先ず、既存の電気設備の状況や、設置エアコンの電力使用量の見込みから、大幅な受電設備の改修が不要と判断し、来年の夏までのエアコン設置が可能であると考えられる、5校分の整備を先行することとしました。

設置工事に伴う実施設計委託業務は今月中に発注し、来年3月の定例会には、補正予算として工事費を計上できるよう、作業を進めています。エアコンの設置は、納入状況にもよりますが、来年の夏までの設置を目指しています。

残る市内小中学校10校分のエアコン設置につきましては、令和6年度で実施設計を行い、その翌年度の令和7年度に設置工事を予定しております。

この10校の来年、夏の熱中症対策に関しましては、既存の送風機、ミストファンなどの活用のほか、夏季休業日数の見直し、タブレット端末を活用した臨時休校の弾力的運用などを実施してまいります。

今夏の異常気象ともいえる記録的な猛暑は、まさに災害級と言っても過言ではない気象であり、市内小中学校のエアコン設置につきましては、スピード感を持った対応を行い、子どもたちが安全・快適に、学習に取り組むことができるよう、早期に環境改善を実現して参りたいと考えています。

#### 【フリップ6】

次に、防災ラジオ運用開始についてでございます。

市では、防災情報伝達の更なる多重化を図るため、FMいるかの放送網を活用した防災ラジオの導入を進めておりますが、12月1日から運用を開始することとなりました。

防災ラジオは、FMいるかの放送電波に起動信号をのせることで、これを受信した防災ラジオが自

動起動し、市の防災無線と同じ内容が放送に割り込んで流れるというもので、75歳以上のみ世帯や障がいのある方がいる世帯などを無償貸与の対象としております。

対象世帯へは10月中旬に案内文書を送付しており、約1ヶ月の間に

2,000台近くの申込がきております。

お申しいただいた分については、運用開始までにお届けできるよう、順次発送してまいります。今後より多くの皆さまに申請していただけるよう、周知に努めていきたいと考えております。

#### 【フリップ7】

次に、新函館北斗駅を利用される皆さまや周辺の商業施設・宿泊施設を利用されるお客様のおもてなしと、夏からの賑わいを途切れさせず地域に活気をもたらすため、令和元年度から実施している、北斗光回廊「新函館北斗駅イルミネーション」を今年度も実施いたします。

今年度は、新函館北斗駅前のメイン通りの街路樹イルミネーションが、青色から春の北斗桜回廊をイメージできるピンク色へと一新します。

また、11月27日のイルミネーション初日には、本市の公式キャラクターズーシーほっきーの10歳の誕生日をお祝いする点灯式を実施することになっており、ズーシーほっきーの登場はもちろんのこと、上磯小学校吹奏楽部の演奏や、市内2つの保育園の園児が描いてくれた「ズーシーほっきー誕生日おめでとう」絵画展など、誕生日と点灯式を盛り上げるイベントを開催しますので、ぜひ多くの皆さまにお越しいただければと思っております。

最後に、11月17日に予定しておりました、子ども議会につきましては、暴風警報が発表され、悪天候が見込まれたために、出席する児童生徒の安全確保を最優先すべく、延期させていただきました。

日程につきましては、関係機関と調整を行っており、決まり次第ご報告させていただきます。

#### 質疑

\*以下、質疑答弁については簡略化。

詳細については、市公式HP上にアップしているのでそちらをご覧ください。

URL <https://www.city.hokuto.hokkaido.jp/docs/15572.html>、

#### ■北海道新聞 石橋記者

制服について、無償化や付随するサービスについても詳しく教えてほしい。

#### ○市長

まずは、基本的に無償。無償対象の基本セットというのは、ブレザー、冬用のスカート・ズボンのいずれか1つ、ネクタイ・リボンです。ただし無償対象は冬用のみなので、夏用のスカートやズボン、Yシャツなどをご負担いただたい。

新しい制服化に伴い、成長していくと丈だしの必要が出てくる。その場合、在学3年間は、無償で対応。

また、成長に伴って上着が着用できなくなった場合は、今着用している制服と引き換えで、レンタルを行う着用保障を行う。

おさがりや転校時、各学校エンブレムが違うので、それに対しても、付け替えを無料で行う。

ボタンが紛失した場合の対応は、各学校で準備しているボタンを使用する。

■北海道新聞 石橋記者

直しは、夏用も対象となるか。

○市長

なります。

■北海道新聞 石橋記者

総額34,100円と言っていたが、今までより高いのか。

○市長

今までの制服よりは安価になっている。

○川原教育次長

今まで各学校、バラバラの制服だった。小規模校は、人数の関係から5万円程度。

大規模学校は4万円程度であり、いずれも安くなる。

■函館新聞 野口記者

制服について、上着が着られなくなった場合、レンタルで引き換えとなっているが、卒業した場合は、引き換えで渡していたレンタルの制服を返してもらい、本人のものを本人にまた返すというイメージか。

○市長

おっしゃるとおり。

■函館新聞 野口記者

最終的には着られなくなったものが手元に返ってくるということでよいか。

○市長

そうです。

■函館新聞 野口記者

各学校のエンブレムやボタンは各学校のデザインだと思うが、ネクタイ・リボンの色も各学校違うのか。

○市長

違います。

■函館新聞 野口記者

今、展示しているのはブルーと濃いグレーだが、他の学校でも色が違うのか。

○市長

はい。

■函館新聞 野口記者

慣れてくるとネクタイ・リボンでどこの学校かが、すぐわかるようになってくるということか。

○市長

そうなります。

■函館新聞 野口記者

ボトムスは1着のみ無償となるが、女性の場合は、スカートとスラックスいずれかが無償となるか。両方とも欲しい場合は？

○市長

両方とも欲しい場合は、どちらかを一方をお買い上げいただくことになる。

■函館新聞 野口記者

光の回廊で、昨年の使用電球は6万球と聞いていたが、今年の規模感は？

○観光課 協課長

今年の電球数は、7万3千球で契約している。

■函館新聞 野口記者

イルミネーションの色は、引き続き青色部分もあるのか。全部ピンク色に変わるのか。

○観光課 協課長

街路樹部分の2万4千球が青色からピンクに変わる。駅前のトンネルなどは、青と白そのまままで変更はない。

■朝日新聞 野田記者

統一制服について、補正予算の中に追加という項目で1300万円が計上されているが、これを含めてこの事業の総額は？

○財政課 新川課長

表現であるが、追加は新規を表し、増額はこれまでであった事業に対して増額するという見かたである。ですので、今回は新規事業である。

■朝日新聞 野田記者

それでは今回の13,299千円が、購入費の助成の総額と理解してよろしいか。

○財政課 新川課長

そのとおり。

■朝日新聞 野田記者

中学校何校で何人分と見積もっているのか。

○川原教育次長

中学校は全部で5校。約390名を見込んでいる。

■朝日新聞 野田記者

統一制服の購入費を全額助成という事業は、近隣渡島、道内も含めて例がある事業なのか。

○市長

例がある事業ではないと思っている。

今回統一制服をブレザーにするということは、教育委員会で主導してきたが、どちらかと言うと生徒の都合ではなく、一部の学校からセーラー服の変更という話もあった。例えば友達やご兄弟からお下がりをいただけるといったことが、今度は使えなくなくなるため、すべて購入しなければならぬ。そういった経済負担を考えたときに、やはりここは助成すべきという考えに至った。

■朝日新聞 野田記者

一部の学校からセーラー服の変更を求める声があったというのは、冒頭、市長がおっしゃっていた性の多様性への配慮だと考えてよろしいか。

○市長

必ずしもそうではないと思っている。実際直接聞いたわけではないが、もしかするとそういう悩みがあったかもしれない。いずれにしても、経済的負担を解消するために子育て支援の延長という形になると思いますが、市の方で全額助成していきたいと思っている。

■北海道新聞 石橋記者

コロナ禍が終わって、観光イベントも正常化してきているが、肌感で構わないが、観光客は増えているか。

○市長

コロナ前はかなり戻ったと思っている。肌感覚として、大体8割9割は戻ったという思い。ただ、例えば先般行われた紅葉回廊を申し上げると、前半の期間の天気が思わしくなかった。数字的には去年より減った形になったが、後半だけの人数を見ると、前年よりもかなりの人数の方が来ている。それから、桜回廊もそうだが、かなり戻ってきている状況だと思っている。

■北海道新聞 石橋記者

振興局で灌漑用水問題の対策会議が開かれ、北電が来年の4月までに改修工事を終わらせると示したが、市長の受け止め、要望があればお聞かせ願いたい。

○市長

今年の6月に北電の水力発電施設の不備・故障において、その用水が供給できなくなった問題だが、当然、渡島平野土地改良区内の農地に広くわたっていくわけで、北斗市が大部分を占めている。市としてその問題に積極的にかかわってきた。協議会も当初市で設置する予定だったが、総合振興局で設置するというので、そちらにお任せしている。そんな中で先般、会議が行われ、来年の4月まで復旧をしたいという意向を北電が示したという報告を担当から受けているが、北電からは直接何も報告は受けていない。

■函館新聞 野口記者

確認だが、先ほど制服の対象は、5校390名と聞いたが、新1年生だけという認識でよろしいか。

○市長

そのとおりです。

■函館新聞 野口記者

今在学中の在校生はそのまま、来年度入学する新1年生だけがこの新しい制服に変わるということでしょうか。

○市長

そうです。

■函館新聞 野口記者

SDGs 宣言推進事業について、今後企業が増えていった場合、市としては適時どういった形で市民へ報告するのか。

○市長

まず、市の広報誌、HP 等で登録事業者・団体を随時登録してお知らせしていく。

■函館新聞 野口記者

HP だと割と早く登録後に更新されるということでしょうか。

○市長

そうです。

SDGsに関しては、今、全世界で SDGsに対して2030年を目標に17のゴール、169 のターゲットにむけて、皆さん活動している。SDGsに関する取組をしている学校、ほとんど上場企業の中では取組みをやっているのでは。今回、8事業者・1団体に認証を渡したが、それ以外に活動している学校・団体もあると思う。例えば、就職を希望する若い方たちが、どういった会社を選ぶのかといったときに、そういった取組みを行っている事業者・学校にすすみたいという思いがあれば、市内において活動している事業所・団体をきちんと公表すべきという考えのもとに行っている事業である。

以上で、市長の記者会見を終了します。